

つなぐ

ふるさと宇和島／南予

秋号
2021 No.16

ご自由にお取りください



特集
1

宇和島信用金庫 創立 100 周年企画
百年前の宇和島

特集
2

撮り歩きなんよ特別編
ふるさとの紅葉

インタビュー タナベ昭和館 主宰 田部 司

つなぐ 2021 October 秋号

C o n t e n t s

- 01 エッセイ 「偶然の出会いに思うこと」 石口 孝治
- 02 インタビュー タナベ昭和館 主宰 田部 司
原動力は「郷土愛」
- 05 特集 宇和島信用金庫 創立 100 周年企画 百年前の宇和島
- 06 大正時代の「追手通」界限／田部 司 08 大正後期 宇和島市街地図
- 10 宇和島の今昔と宇和島信用金庫／宇神 幸男 12 難産だった八幡村との合併
- 13 撮り歩きなんよ 特別編 ふるさとの紅葉
北濱一男／清家 昇／白石信夫／是澤二夫
梶原 正／久保政文／中川八千代／本田耕一
- 18 鉄女 やましたあやこ& 予土線特集やりよりもす6
鉄道カメラマン つぼうちまさみ
- 22 (新) 観光情報センター「シロシタ」 オープン
- 24 南予の祭り歳時記「吉田秋祭の神高幸行事」 愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員 大本 敬久
- 25 うわしん若手経営塾OB 株式会社 伊予善 水谷 綾子
若女将 6
- 26 新型コロナウイルス感染症 第 5 波とデルタ株 沖内科クリニック 副院長 沖 良隆
- 27 心を満たす栄養 広島修道大学 教授 藤井 文子 最終回



表紙／「小さな音楽家」
作／ありま三なこ

プロフィール

1987年生まれ、愛媛県宇和島市出身。
子供の頃から絵を描くことが好きで、大学の卒業制作で、しかけ絵本を作り、それから絵本に興味を持つ。2016年第8回 be 絵本大賞受賞、絵本作家デビューを果たす。
現在は個展やイベントへの出品等で活動中。



宇和島市三間町 毛利家とコスモス (撮影／北濱一男)



大正時代の袋町浜通り (写真／田部 司)



日向谷川 (鬼北町日吉) の紅葉
(撮影／北濱一男)



つなぐ秋号 No.16

〒798-0041 宇和島市本町追手 2-8-21

0895-23-7000

年 4 回発行 (季刊誌)

配布先 / 宇和島信用金庫各営業店ほか

発行 / 宇和島信用金庫

編集・構成 / 業務推進部 広報文化室 川尻

本誌掲載内容の無断転載を禁じます

私は今年三月に、八幡浜市から福島県南相馬市にある原子力規制庁福島第一原子力規制事務所に異動しました。丁度十年前、大震災の大津波を受けて、東京電力福島第一原子力発電所が、大爆発を起こしたことは、皆様も鮮明に記憶していることだと思います。多くの住民が避難を余儀なくされ、故郷を離れました。その後、廃炉を完遂するため、様々な計画を東京電力や国の機関が行ってきました。

原発事故から十年、除染作業が終わり、徐々に故郷へ戻られた方々がいる中、未だに放射性物質の濃度が高くて「帰還困難区域」に指定され、戻りたくても戻れない区域があります。原発の所在地である大熊町、双葉町はもとより、隣接している浪江町もそのひとつです。

私は用務で、主に原発から30キロ圏内の市町村を巡回しており、浪江町は南相馬市から主要な市町村へ行くのに必ず通ります。その最初の巡回の時、私にとって忘れられない衝撃的な出会いがありました。写真の「津島中学校」との出会いです。

その文字を見たとき、一瞬呆然としました。私も南予津島町の「津島中学校」の出身からです。浪江町の中学校の表記は「双葉郡浪江町立津島中学校」とあります。私がいた中学校と同じ様だとわかります。この津島地区は原発事故の影響で高濃度に汚染され、全地区の住民が移転をしなければならなくなり、中学校も休校に。現在は閉校となっています。

「偶然の出会いに思うこと」

石口 孝治



双葉郡浪江町立津島中学校の看板

津島地区は、原発から約30キロの距離に位置しています。そんな離れた地区が移転をしなければならぬ位に汚染されました。

同じ「津島中学校」の地に立ってみて、もし、私がこの「津島中学校」に通っていたなら、自分も同じような運命を背負うことになったのだと、原発廃炉の監視の問題だけではなく、複雑な心情を抱えるようになりました。

昨年度、津島地区も除染作業が行われ、今年四月の末、除染が終わった田圃で、試験的な田植えを、国主導で実施しました。田植えが終わった風景は実に美しい。田圃を見ながら復興への希望だと感じました。しかし、できた米は全量検査され、放射性物質濃度が基準値より低くても、全量廃棄されることになっております。現実は無情ですが、復興への第一歩だと思います。近い将来「帰還困難区域」が解除され、住民の方々が戻って来られ、また賑やかな田植えができ、そして「津島中学校」が再び開校することを願っています。

室生犀星の「小景異情その二」に「ふるさととは遠きにありて思うもの・・・」とあります。この詩の真意は、犀星の生立ちを知るところから読み解く必要がありますが、私は「浪江町立津島中学校」に来るたび、この詩が頭に浮かび、故郷の南予津島町を思い出してしまいます。

一番の思い出は、毎年八月十七日に開催された「おおばく祭り」です。小学校低学

年の頃、百円札（板垣退助氏の肖像）を一枚握りしめて、屋台の出店で駄菓子やアイスを買ったことを思い出します。大がかりな花火もあり、賑やかな夏祭りの雰囲気を感じました。今は、「つしま夏まつり」と名前を変えています。毎年その日に行われています。しかし、西日本大水害と新型コロナウイルス感染症対策で、ここ三年連続中止となっています。早く新型コロナウイルスが終息して、再開されることを祈っています。

私は、来年三月で定年を迎えます。第二の人生は故郷南予で過ごすつもりです。「浪江町立津島中学校」との偶然の出会いで、その決意をしっかりと固めました。



石口 孝治 いしぐち こうじ

1958年 津島町（現宇和島市）生まれ
宇和島東高校卒業
東京大学大学院新領域創成科学研究科修士
原子力規制庁 伊方原子力規制事務所 上席放射線防災専門官
現在 福島第一原子力規制事務所 勤務
趣味は、料理（餃子が得意）と俳句（いつき組）

原動力は「郷土愛」

タナベ昭和館 主宰 << TANABE TSUKASA 田部 司

小誌連載の「ツナグ昭和館」をはじめ、2018年秋号の特集「時代劇の父映画監督 伊藤大輔」への寄稿、監修でも大変お世話になっている田部さんだが、時代劇の父と謳われる宇和島市出身の映画監督・伊藤大輔の研究をはじめ、数多の映画作品及び映画人に通じ、自他ともに認める映画通だ。また、郷土のあまり光の当たらない文化や人物史にも大変造詣が深く、明治から昭和の古写真の収集家としても知られている。

昭和25（1950）年に現在の本町追手にあったタナベ眼鏡店の長男として生まれ、幼少期は祖父に時代劇を洋画は父に連れられ、よく映画を観にいったという。当時は娯楽の中心は映画で、宇和島市街地にも最大10館の映画館があったこともあり、次第に映画に没頭していった。

小学校の高学年頃に父の眼鏡店が袋町商店街に移転するが、学校に近いこともあって、中学校を卒業するまで、佐伯町の祖父の家から通学することになる。そこから映画館へ入り浸るには前より一層都合だった。田部さんは、この頃のことをつなぐ第4号の特集「宇和島と映画」のなかで「映画が学校だった世代」と表現しているように、自由奔放に過ごせたい時代だった。

そして、中学校卒業後、「全人教

※1）小原國芳によって唱えられた教育理念で、人間形成には「真」「善」「美」「聖」と、それを支える補助的な「健」「富」を備えたバランスの取れた人格を育むべきであるとする考え。

育」を唱える東京の玉川学園の高等部に進学することになる。この学園では、高校としては珍しい、自由なテーマで卒論を提出する決まりがある。そのため自由に課外活動することも認められていた。田部さんが選んだ故郷宇和島をテーマにした卒論は、その後の人生のバックボーンになっている。

その後、文学部に進んだ後、今で言うフリーターの通りの様な生活をしてきた。東京時代には、さまざまな映画観賞のほか、ドサ回り芝居や寄席など大衆芸能にのめり込んだ。

20代半ば、思うところがあった帰郷したが、そもそも家業を継ぐことは思っていなかった。まず大阪の眼鏡学校へ入学し認定眼鏡士の資格を取得し、少しずつ商売のイロハを学んでいった。

当時、袋町商店街で毎月開催していた日曜市は、若手後継者主体で様々なイベントを実施していたが、玉川や東京暮らしで培った知識と経験をもとに、商店街をそのまま映画館にした全国初の「アーケードシアター」や古い街並みの写真展などを開催し、好評を得た。こうした活動が縁となって、平成3（1991）年に樺崎にオープンした「宇和島市立歴史資料館」の開館準備期間に運営委員として参加し、作家の末広鉄腸、俳人の富沢赤黄男、画家の高島華宵

そして映画界では伊藤大輔を取り上げ、「先哲顕彰コーナー」を開設した。氏がライフワークでもある伊藤大輔に興味を持ったのは、昭和62（1987）年に京都の東映太秦映画村を観光したおり、「映画の殿堂」という日本の映画芸術につくした歴代の映画人たちの顕彰コーナーを見学した時だった。「日本映画の父牧野省三」らに続く最初の方に、「伊藤大輔」宇和島市出身」と紹介されているのを目にして衝撃を受けた。

その後、伊藤夫人の朝子さんとの面会を果たし、宇和島市の南予文化会館や生涯学習センターで計8回、活弁付き無声映画上映など、伊藤大輔映画祭を開催している。

また、平成14（2001）年の秋には、氏が中心となり伊藤大輔生誕記念碑が宇和島市元結に建立された。そして、約10年前、経営するメガネのタナベ袋町店の2階で絵画などを販売していたギャラリーに替えて、自身のライフワークの「伊藤大輔」「映画」「郷土の古写真」などや郷土関連のコレクションを展示した「タナベ昭和館」を開いた。同館には熱狂的な映画ファンや郷土史に興味のある人々に混じって、現代アートの大竹伸朗や写真家の森山大道といった著名人も訪れる。

田部さんは常々、面談もしないで本や資料だけに頼った机上の研究や

調査を否定する。

「貴重な写真も、呼びかけた程度で集まるはずがないんです。常日頃そういった方々と十分なコミュニケーションをとって初めて大切な写真を託して頂いたり、本音のお話を聞くことができるんです」という。

田部さんは、渡航経験も豊富で、基本は航空券のみのフリーのひとり旅。最近では先祖の足跡を巡り、オーストラリアではギネス認定の「世界最古の屋外映画館」（1903年）は母方の曾祖父が創設者だったことを調べあげ、現地で逆取材を受けた。

2年前に運転免許証を返納して活動の足は、もっぱら自転車だ。先日、電動アシスト付きの自転車を手に入れて行動範囲を広げ、吉田町はもちろん、御荘から西海にだってレンタサイクルで平気で行ってしまう。この原動力は、どこから来るのだろうか？ 聞いてみた。

「高校から親元を離れて東京の学校に行きましたが、その時に芽生えた郷土愛でしょうかね・・・」

近々、田部さんは、忘れられた宇和島の歴史・文化・自然を再発見することを目的とした小冊子『宇和島探検』を志を同じくする人たちと発行する。興味のある方はぜひ、手に取ってご覧になって頂きたい。

インタビュー・構成／川尻純滋

※4）「私の異常なまでの映画好きは先祖のDNAだったかもしれない」という旅の様子はブログ（タナベ昭和館）で連載中！



プロフィール／昭和 25 (1950) 年生まれ 宇和島市在住 日本眼鏡技術者協会会員 シネマニア宇和島 タナベ昭和館主宰

 タナベ昭和館 <https://tanabeshouwa.wordpress.com/>



昭和の宇和島
ノスタルジア
街角写真



宇和島が生んだ
時代劇映画の父
伊藤大輔



懐かしの
宇和島
映画館



宇和島
愛媛の
映画人

豊富な資料 写真公開中

タナベ昭和館

入館料 500 円
ワンドリンク付き

宇和島市中央町 2 丁目 4-1 2

☎0895-22-3557

宇和島市の袋町銀天街のメガネのタナベ袋町店の 2 階にある「タナベ昭和館」には、主宰の田部司さんが長年撮影または収集した懐かしい「昭和の宇和島街角写真」や宇和島出身で時代劇映画の父と謳われる映画監督の「伊藤大輔コーナー」、昭和映画のポスター、そして、かつて宇和島市内にあった 10 館を越える映画館の懐かしい写真や資料など、他では観られない貴重なものが展示されている。

来館者には、現代アートの大竹伸朗、写真家の森山大道・都築響一など超有名人も名を連ねる、知る人ぞ知る宇和島の超レアスポットだ。

宇和島信用金庫創立二〇〇周年企画

百年前の宇和島

大正時代の融通座〔本町追手 大正後期〕

明治18（1885）年、芝居小屋として開館。大正4（1915）年、改装して花道や枱席など歌舞伎小屋の設備を整え、四国一の回り舞台と謳われた。

2代目市川猿之助、6代目尾上菊五郎らのほか、「大正ロマン」を象徴する松井須磨子、欧米で人気を博した川上貞奴から長谷川一夫や美空ひばりまで、戦前・戦後を通じて名だたる名優・大スターが舞台を踏んでいる。

木造2階建ての両端にドーム屋根を配した和洋折衷造りの

貴重な文化財でもあったが、戦後は映画館になり、

昭和40（1965）年閉館、建物も解体された。

2階の手摺付きバルコニーにも

観客の姿が写っている。

（写真／文 田部 司）



大正時代の「追手通」界限



(写真1)「おたもん」と呼ばれ親しまれた雄大な追手門（当時は国宝に指定されていた）



(写真3) 追手名所となった鶴島館（のち中央キネマ）の夜景



(写真2) 改装直後の融通座 左手の花道と棧敷席を新設

今からちょうど100年前は大正10（1921）年に当たりますが、当時の宇和島で「おまち」といわれ最も町衆のパワーが溢れていた追手通りは、明治33（1900）年、濠の埋め立てによって宇和島城の出入りの門「追手門」（写真1）に沿って開けた町という意味で名付けられました。国宝に指定されていた追手門は天守閣をも凌ぐ見事さで、外から門をくぐると「昭翠園」という憩いの広場もあって、一日中、近在近郷の人たちで賑いました。

追手門とともに、追手の繁栄を象徴したのが明治18（1885）年開設の櫓を乗せた芝居小屋「融通座」（写真2）の存在で、その背景には宇和島運輸会社が同年宇和島―大阪航路を開き、中央からの文化が松山経由でなく、宇和島に直結していたことが大きかった。大正4（1915）年、回り舞台と花道、枱席など歌舞伎小屋として本格的な設備を整えた芝居中心の融通座に対して、宇和島初の映画館「鶴島館」（写真3）が追手門横に開館しました。

大正3（1914）年、宇和島鉄道が宇和島―近永間を結び、同7（1918）年には宇和島自動車（バス）がこの地で創業し、同9（1920）年1月に早くも宇和島―御荘線の運行を開始したことで一層活況を呈しました。10（1921）年4月、物産・文化の博覧会である「宇和・喜多五郡連合共進会」は、一地方都市で万博を開



たなべ つかさ
田部 司
タナベ昭和館主宰
メガネのタナベ



(写真5) 市制祝賀風景 「市章」幕の下を内町芸者が歩く河岸端通り



(写真4) 市制祝賀風景 カフェー・ミカド (左) のある追手通り



(写真8) 宇和島初登場のカフェー・ミカド



(写真7) 柳と花屋旅館は追手のもう一つのシンボル



(写真6) アーチ窓が美しい木藤時計店の新築店舗

催したような一大イベントで、南予の中心都市宇和島を印象付けました。諸資料からは、第一次世界大戦の終結（1918年）後の好景気と並行して人々に浸透していった「大正デモクラシー」といえる民衆のパワーを感じさせます。8月1日には隣接の八幡村と宇和島町が合併して念願の「宇和島市」が誕生しました。追手通り（写真4）と河岸端通り（写真5）の市制祝賀の様子です。

この時代は、商業にとっても発展期といつてよく、明治中期創業の木藤時計店（写真6）がアーチ窓のあるモダンな洋館に新築、同期創業の貴金属細工の「清澄堂」が市内初の眼鏡専門店に切り替えたのも同じ大正13（1924）年。時計店や眼鏡店は各地に広がっています。漆器や仏具の「松浦商店（追手の松浦）」や舶来雑貨を扱う「石崎商店」、丸重や平井といった呉服店などがこの町の草分け的存在で、演劇映画関係者や旅行者向けに花屋（写真7）、加戸屋（清家）、木屋、青葉などの旅館が益々賑いました。

「秋風や 木屋とは古きまんじゅう屋」（松根東洋城）――

追手名物として喜作餅や霊月堂のやんべ羊かんが知られ、写真のような行列ができています（写真9ページ左）。「清水の唐まん」清水閑一郎本舗が追手に移転したのもこの頃。そうした昔変わらぬ伝統の味は現在では吉弘菓子舗と松月堂に引き継がれています。また、忘れてならないのは、北陽、築地がまだない明治中期頃に置屋「いろは」などから成る内町花街^{※1}があったことである。なお、宇和島初のカフェー「ミカド」^{※2}

※1 花街（かがい、はなまち）
芸者置屋、料亭などが集まっている地域を指す名称で、花柳（かりゅう）という別称もある。

※2 カフェー
着物に白いエプロン姿の女性が接待して洋酒を飲ませた飲食店で、大正を象徴する文化的なサロンでもあり、昭和初期にかけて大流行した。

ド」（写真8）の開店は市制発足当時（大正10（1921）年）。カフェーの女給は女性の社会進出とも重なり一世を風靡し、のち「カフェー横丁」も誕生しました。元伊予銀行追手支店の場所にあったミカド並びに丸水楼や大吉楼といった有名料亭が軒をつらねていました。

さて、こうして100年前の追手通りを見てきましたが、幕藩体制から解放された明治の時代を経て、大正時代には華やかなロマンチズムやモダニズムといった大衆文化と第一次大戦後の拡大経済が開きましました。そこには、辺境を逆手に取ってどこにもない個性を追求した大正の宇和島人の気骨が感じられます。これを機に宇和島には、伊達文化だけではなく、さまざまな奥深く幅広い歴史や文化、自然があることを認識して、今こそ、全く新しい発想や視点からの独自性あるビジョンを打ち立て、令和ルネッサンスを起こす時ではないでしょうか。

大正 後期 宇和島市街地図

※この地図は、南豫時事新聞社が大正末期から昭和初期ころ発行した地図を参考に制作しましたが、すべての会社や店舗を網羅したものではないこと、地図表記に時代的に不確実な点があること等ご了承ください。



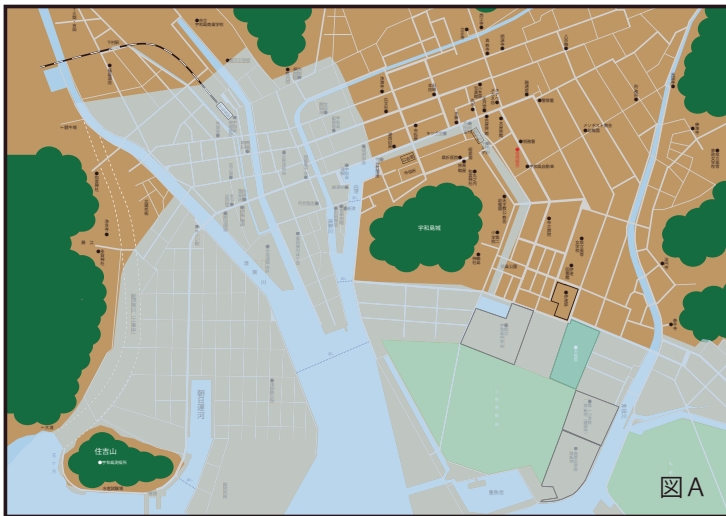
※1) 人力車の駐車場で当時市内には 200 台ほどの人力車があり、駐車場は 11 ヶ所あった。

宇和島信用金庫は、来年、創立100周年を迎えるが、創業当時（大正時代）の宇和島は、どんな様子だったのだろうか。

平地の少ない宇和島は、伊達家入部以来、頻繁に埋立てが行われてきた（図Aは、昭和43（1968）年発行の「私たちの郷土増訂版」に掲載されている「伊達氏入城前の推定図」と上の地図を重ねたもの）。図からも現在の宇和島市の中心部の大半が海だったことが分かる。

宇和島信用金庫の前身、宇和島信用購買組合が創立されたのは、宇和島町と八幡村が合併して県内3番目の市として宇和島市が誕生した（当時、人口は松山・今治に次ぐ県下第三位の南予最大の都市）翌年の大正11（1922）年5月3日だ。

創業当初は、現在の長野産婦人科医院前にあった「信義社」に間借りしていたが、その後、現在の宇和島ハイヤー（株）本社がある場所（税務署前）に移転。そして、昭和38（1963）年、現在の本町追手に本店と本部を新築移転し、現在に至る。



(写真上 - 地図①)

追手通りから河岸端、袋町浜通り（現袋町商店街）への道。左の店は松浦商店（追手の松浦）、三階建ての花屋旅館、平井呉服店。右の通りには「やんべ羊かん」の霊月堂、スーパーの走り「田中商事」など洋風建築が並ぶ素晴らしい町並みである（昭和初期）。

(写真下 - 地図②)

堅新町（たつしんまち 現新町）の内港に面して、宇和島運輸株式会社の本社屋として、^ゝとんがり帽子の時計台のある赤レンガの洋館が新設されたのは、大正に元号が改正する直前の明治45（1912）年7月。同社は、明治17（1884）年に創立されたが、創業後30年近くは宇和島城の一郭の角やぐらを本社に使っていた。宇和島運輸の右に隣接していた物資などを船で運送する神森回漕店は、大正10年にはなくなり、宇和島運輸の建物はこの2倍近い大きさになった（大正初期）。

(写真／文 田部 司)



※2）須賀川は、昭和7（1932）年、現在の位置に付け替えが完了した。

宇和島を取り巻く大正時代の主な出来事

- 大正2（1913）年 第一次世界大戦勃発
- 大正3（1914）年 宇和島く近永間に鉄道開通
- 鶴島神社（現・南護国神社）創建
- 洪沢栄一から狒犬が奉納される。
- 大正6（1917）年 丸穂村編入
- 大正7（1918）年 第一次世界大戦終戦
- 大正9（1920）年 戦後恐慌始まる
- 大正10（1921）年 八幡村と合併、市制施行（初代市長は、山村豊次郎）
- 第一次国勢調査
- 宇和島市人口…3万2274人
- 大正11（1922）年 宇和島信用購買組合開業
- 大正12（1923）年 関東大震災
- 大正14（1925）年 宇和島市庁舎完成
- 第2内港（朝日運河）完成
- 大正15（1926）年 大正天皇崩御

宇和島の今昔と宇和島信用金庫

十年一昔、と言う。一昔前、宇和島に自転車タクシーが走っていたのを記憶だろうか？ 賛否両論あったこの事業、自転車タクシーは手段に過ぎず、国の雇用対策事業だった。市民の血税を費したわけではない。このことを特筆大書しておきたい。

と、いきなり脱線から始めたが、明治の初期、「四国の宇和島では士族が人力車を引いている」という記事が全国紙に掲載された。東京（旧江戸）でも、元旗本の若様が人力車を引いていた例がある。宇和島藩は明治新政府に有力な藩閥を持てなかった。旧宇和島藩士の多くは困窮し、人力車を引く者もいたのであろう。

廃藩置県から1年後、ちよん髷に二本差しの旧藩士がお城下を歩いていた明治5年8月、とある会社が佐伯町に開業した。士族有志が出資し、資本金2万円で立ち上げた信義社である。金融業と印刷業を兼ねた信義社は、宇和島における銀行の始まりとされる。のちに広小路（病院通り）に社屋を建て、移転した。

明治以後、軽工業（主に製糸）による発展を目指した宇和島は大正3（1914）年、第一次大戦の戦争景気であつてない活況を呈した。追手通りから船大工町（現在の恵美須町2丁目商店街）にいたる長い商店街が形成され、宇和島商工会が創立される。大正7（1918）年の夏、米騒動が起き、8月からはスペイン風邪が全国に大流行す

る。11月10日付の海南新聞（愛媛新聞の前身）は、「熾烈を極むる病魔の勢ひ 宇和島町全滅 人口一萬九千中 患者一萬二千」と報じている。これはもう、現在のコロナ騒動どころではない。しかし、全滅と報じられた宇和島町は生き残ったのである。明けぬ夜はない、と信じたい。

スペイン風邪が猛威を揮う中、11月に第一次大戦が終わる。戦後恐慌は大正9年に始まり、宇和島でも工場の操業短縮・休業が相次ぎ、職工の大量解雇が始まった。

大正10（1921）年8月、宇和島町は八幡村を合併し南伊予の雄都宇和島市が誕生した。

ここで再び脱線するが、今年（2021）、宇和島市は市制百周年を迎える。しかし、これを記念する事業、イベントなどは実施されない。その理由を市に訊けば、

「平成17年8月1日、吉田・三間・津島の3町との合併で宇和島市は消滅した。今年は消滅した旧宇和島市の幻の市制百周年である。だから、現在の宇和島市がお祝いをするいわれはない」

という答えが返ってきてきそうで、わざわざ嫌な気分にはなりたくないの、あえて訊かないが、

「宇和島市は西日本豪雨災害の記憶が色濃く、祝賀ムードにはほど遠い。コロナ禍も悪化の一途を辿っている。だからお祝いなどもつてのほかである」、というのが理由

であれば、これは納得できる。

さて、宇和島市の初代市長は山村豊次郎で、工業立市を提唱した。和霊公園に立派な頌功碑がある。兄の村松恒一郎はジャーナリスト、衆議院議員を経て、この時期は東京木挽町1丁目の伊達侯爵家委員を勤めていた。

大正11（1922）年5月3日、宇和島信用購買組合が創業する。組合員のための資材・生活物資の共同購入と供給を業務としていた。これが宇和島信用金庫の前身である。もともと、初めは零細なもので、信義社に間借りしていた。

大正から昭和初期の宇和島の古写真には、貧しくとも日々の暮らしに勤しむ人々の姿が見られる。追手通り商店街には大正4年にリニューアルした娯楽の殿堂融通座があり、洋食屋やカフェ、花屋旅館、木屋旅館などの旅館が繁盛していた。街には人々があふれ、内港には舟がひしめき、宇和島は現在よりはるかに活気があった。

宇和島出身者では、高島華宵が日本一の挿絵画家として一世を風靡していた。別府に新天地を求めた油屋熊八は、外国人も泊まれる亀の井ホテルを開業し、八面六臂の活躍を始める。映画監督伊藤大輔も、銀幕にその名を轟かせた。

その一方、昭和は悲惨な戦争の時代でもあった。太平洋戦争末期、予科練があった宇和島は9回の空襲を受け、市街地の7割

以上が焦土と化した。

戦後、日本はめざましく復興し、高度経済成長時代を謳歌するが、その後、経済は停滞した。宇和島は地方都市だけに、ゆるやかに復興し、ゆるやかに停滞した。そして、バブル景気に浮かれることもなく、リーマンショックにもめげず、令和の現在を迎えている。

渋沢栄一は「銀行でいけば大切なものは信用」と語ったが、宇和島信用金庫は信用を看板にして百年の風雪に耐えてきた。近年、宇和島信用金庫は「うわしん伊達文化ZEXY100プロジェクト」として3冊の絵本を制作・頒布した。

『伊達秀宗公物語 — 政宗との親子の絆 —』

（二〇一五年）

『伊達宗紀公物語 — 天の赦した長寿大名 —』

（二〇一六年）

『伊達宗利の娘豊姫物語 — 家と故郷つなぐ「あんず」の縁 —』

（二〇一七年）

この3冊は市内はもろろんのこと、全国的にも高い評価を得た。構成・執筆にあたった私は、このことを誇りに思っている。



うがみ ゆきお
宇神 幸男
作家



「宇和島市の目抜き通り」

明治末から戦後まで宇和島第一の繁華街だった追手通りの大正時代の一コマ。右側には洋風外観が印象的な平井吉三呉服店。のちに丸吉呉服店となり、左隣の花屋旅館とともに戦災を免れた建物は昭和21（1946）年、宇和島自動車本社として再活用され、今は宇和島信用金庫本店となっている（昭和38（1963）年新築移転）。中央の柳の古木は花屋の三階屋根辺りまで伸びており、左手の側溝そばには荷を運ぶ牛が繋がれている。女性の歩く姿はほとんど見えない。

（写真／文章 田部 司）



「宇和島信用購買組合」

宇和島信用金庫の前身の宇和島信用購買組合は、間借りをしていた信義社から堀端町（現：税務署前）に新築移転するが、その新築移転して間もない時期、店舗前で撮影された役員員の集合写真と思われる。



「信義社」

明治5（1872）年8月、佐伯町に信義社が設けられたのが宇和島の銀行の始まりである。旧士族の有志がこれまでの頼母子講金融ではダメだとして、一口20円の出資で、資本金2万円の株式会社信義社を創立したのである。やがて、広小路に社屋を新築した。その明治40（1907）年ごろの写真である。大正15（1926）年2月、株式会社宇和島銀行に預金貸金とも引継がれた。今、100年の風雪に耐えて、伊予銀行宇和島店の独身寮となっている。（写真／文章「ふるさとの思い出 写真集 明治 大正 昭和 宇和島」国書刊行会発行より引用）

宇神 幸男 プロフィール

1952年、宇和島市丸之内生まれ。宇和島南高等学校卒業。

その後、宇和島市に奉職。1989年、ピアニストE・ハイドシェックの再デビューリサイタルを南予文化会館で開催。

1990年、「神宿る手」（講談社）で小説家デビュー、以後7冊刊行。定年退職後は南予文化会館館長を経て、運営顧問として「パフィオウわじま」での文化事業の企画・開催にあたっている。

著書に『宇和島藩』、『幕末の女医楠本イネ』など歴史書4冊、近著に『三島由紀夫VS音楽』がある。

旧宇和島市制100周年 難産だった八幡村との合併

宇和島町と隣接する八幡村との合併問題が表面化するののは、明治41（1908）年、中原町長による藤江部落の一部編入を目的とする「両町村境界変更問題」だ。結局、県に申請するも双方の十分な協議がなされていらないとの理由から進展することはなかった。

当時、宇和島町が抱えていた課題は、第一に、当時町の経済的生命線と捉えられていた港湾改修。第二に、上水道の整備。そして、第三に、学校の整備だったが、これらすべて、実現するための候補地は八幡村地区以外にはない、といった状況だった。

方や八幡村はというと、当時、県下最大にして最富裕の村で、旧須賀川沿いにあった「川端（北陽）花街」には、置屋、料理屋併せて100軒ほどがあり、芸者も百数十名いたという。また、日本酒類醸造、宇和水電会社、宇和島鉄道会社などを筆頭に製糸、織物その他18社ほどがあり、これらの税収が村の大きな財源となっていたことから、一部には「宇和島と合併せず町制移行を目指すべし」との強硬な意見もあった。そして何より、合併後に増税されるのではないかというのが住民の間で危惧されていた、これが合併機運の大きな障害となっていた。

そして、大正8（1919）年、新任の馬渡知事が初巡視のため宇和島を訪問した

際、宇和島町の武内町長と八幡村の松浦村長に合併を実現させるよう指示したが、その後も合併へ向けての糸口は掴めないままだった。

そんな中、宇和島町では、武内町長が辞任し、合併問題解決の使命を担い山村豊次郎が町長に就任し、集会等で合併の意義を説いて回ったが、八幡村の下村地区（現…和霊町）だけが最後まで強硬な反対運動を展開していた。

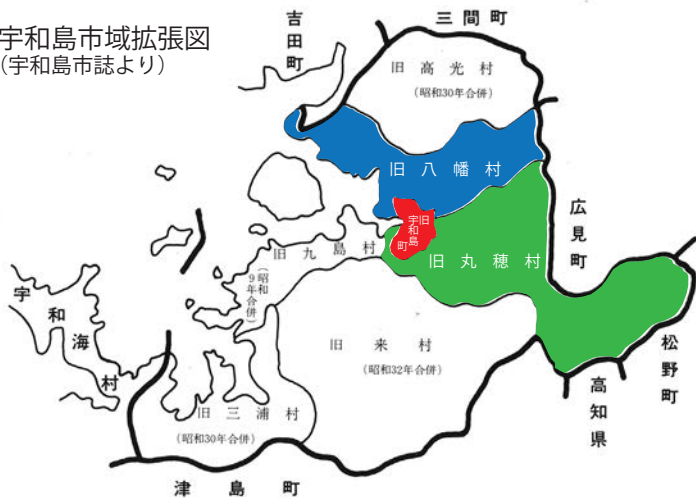
そんな状況を打開すべく、山村町長は八幡村議との公式協議を呼びかけたが、なぜか八幡村側は30歳の村職員の牧野寅恵に、その大役を任せた。会談後、牧野は大浦地区で総会を開かせ、その場で合併の意義を説き、結果、大浦地区で「合併賛成」の決議がなされた。この事が他地区での合併賛成の動きに繋がっていったが、下村地区だけは依然強硬姿勢を崩さずにいた。

このような状況の中、東京の穂積陳重から親友の居村繁治郎のもとへ「合併問題が解決しないのは心痛の至りである。もし貴下の尽力で山村村長に勧告し町村有志を上京させる事が出来るならば自分も郷土のため一臂の助力をおしめが如何」といった内容の手紙が届く。

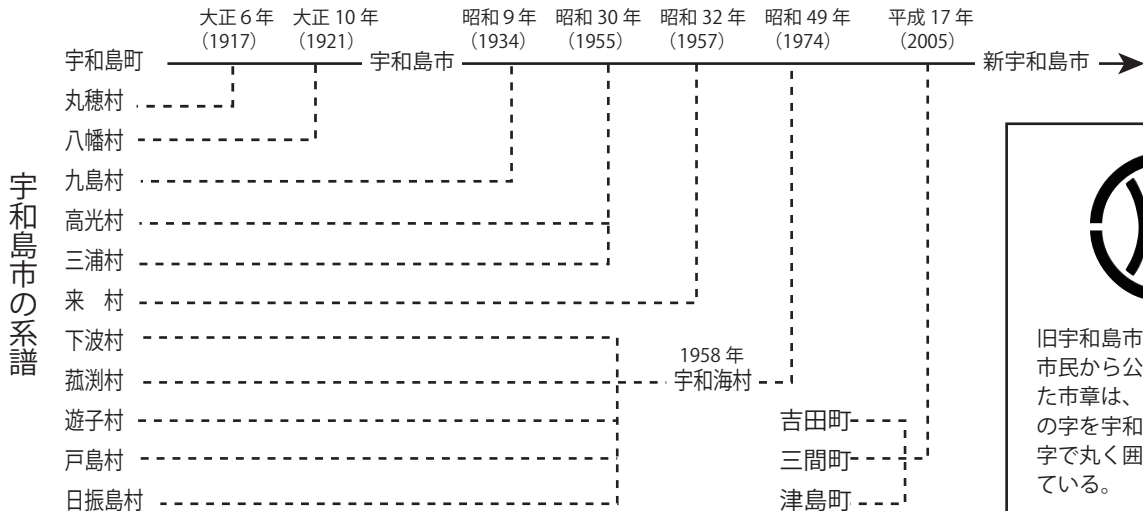
これを受けて八幡村から、村会議員2名を含む7名が上京し、陳重から合併の得失についての話を聞き、強硬反対派も軟化の

※1) 少しの助け

宇和島市域拡張図
（宇和島市誌より）



兆しが見え始めた。そこへ、追い打ちをかけるように新任の警察部長から「村に芸者を置くことを一律禁止にする」という方針が発表され、これにはさすがに反対派は意気消沈してしまい、一気に合併の協定書が結ばれ、大正10（1921）年8月1日、ハレて宇和島市が誕生した。この年の統計によると人口3万2274人で、松山市に次いで県下第2位の都市となった。



宇和島市の系譜



旧宇和島市制施行と同時に市民から公募して決定された市章は、八幡村の「八」の字を宇和島町の「宇」の字で丸く囲んだ意匠になっている。

撮り歩きなんよ特別編 ふるさとの紅葉

今回は、紅葉シーズンを前に
「撮り歩きなんよ特別編」として
地元カメラマンが撮影した秀作と共に
紅葉スポットをご紹介します。

『和霊神社の大銀杏』

山家清兵衛公頼公を神として祀る和霊神社の
大鳥居を仰ぎ、須賀川に架かる
太鼓橋（御幸橋）の先にある隋神門をくぐると、
ご神木なのだろうか、
注連縄と祠のある大銀杏が現れます。
この大銀杏が黄葉し、落葉すると
境内が黄色い絨毯を敷いたようになります。
それを神官が参拝者の楽しみにと、葉を集めて、
落ち葉アートを作ります。

撮影・文／北濱二男 撮影12月4日

＜＜ KITAHAMA KAZUO 北濱一男

1945年 宇和島在住 学生時代から写真をはじめ。本格的な写真歴は約25年。奈良飛鳥の写真家 上山好庸氏に師事し、コロナ禍までは毎月奈良まで通っていた。



愛宕山登山道の紅葉（宇和島市）撮影 12月10日

愛宕山登山道の紅葉は、宇和津彦神社の境内から神殿裏の真つ赤に紅葉した楓を見てから行きましよう。神殿裏から登山道を150mほど歩けば、かなり大きい幹の楓が数本あり、見事に紅葉していました。その近くには、

蕉の母は宇和島の人という説があります。さらに上がると市街地が見渡せる展望台になっていて、町の真ん中に小さいながらも威風堂々の宇和島城が望めます。展望台からの夕景もお勧めの風景です。

「しばらくは花の上なる月夜かな」の松尾芭蕉の句碑があります（芭

＜＜ SEIKE NOBORU 清家 昇

吉田町出身。30年ほど九州にいましたが、現在は宇和島市に居住。定年退職し暇がたくさんできたので趣味の写真を楽しんでいます。



だいじょうじ
大乘寺（宇和島市吉田町）撮影 11月18日

吉田藩伊達家の菩提所として知られるこの寺は、四国では珍しい臨済宗の寺院で、本堂や僧堂、鐘楼などに囲まれた庭園も天保山景を取り入れたと言われ、もみじを中心に種々の木が植えられていて、特に紅葉の季節にはカメラマンの人気の場所でもあります。

2018年の西日本豪雨の際には、河川の氾濫で庭も大きな被害を受けましたが、現在では、ほぼ復旧し、美しい秋の紅葉と苔の緑とのコラボも観られます。もみじ中心の紅葉ですが木々により紅葉のピークに差があり比較的長い期間楽しむことができます。苔の上の落ち葉を撮るなら早朝がおすすです。

<< SHIRAISHI NOBUO 白石信夫

1948 年生まれ 写真歴 19 年。祭り、風景、生物写真を撮り、主に「愛媛新聞読者の写真」に投稿し最優秀賞 1 回、優秀賞 9 回、1 席 19 回など



滑床溪谷（松野町） 撮影 11 月 21 日

滑床溪谷は宇和島市と松野町にまたがる東西 12 キロメートルの溪谷です。11 月中旬より 12 月初旬まで見事な紅葉が見られ、滑らかな花崗岩を流れる清流、様々な形の奇岩に滝や淵。そして上流の千畳敷から大高橋まで、紅葉のスポットがいたる所に在り、見飽きることはありません。

脚に自信のある人は雪輪の滝周

辺がお薦めです。道中、木漏れ日の中のブナやミズナラ、楓などが彩を添えてくれ、途中の小さな橋からの眺めは最高です。また、第一駐車場周りや万年荘上、第二駐車場、森の国ロジ付近も見ごたえがあります。そして意外と知られてないのが、釣り堀手前の藤ヶ生橋下の紅葉です。



<< KORESAWA FUTAO 是澤二夫

1937 年宇和島市（旧津島町）生まれ



せき ち い け 関地池（西予市宇和町）

撮影 11 月 16 日

西予市宇和町信里にある関地池は、寛永 21 年（1644）に築成され、昭和 37 年（1962）に現在の規模に拡張された貯水量 100 万トンを超える県下で 2 番目に大きなため池です。周囲は約 2.4 キロメートルもあり、一周することも出来ます。

例年、桜が見ごろを迎える 4 月上旬には約 500 本の桜が咲き、「さくら祭り」が開催され、秋は紅葉の名所として知られています。鴨が渡ってくる季節、宇和盆地に霧が出ると幻想的な風景を堪能することが出来ます。



＜＜ KAJIWARA TADASHI 梶原正

1932 年生まれ 宇和島在住



滑床溪谷（松野町）

撮影11月21日

私は樹木が好きなので巨樹や珍樹、ときには奇樹に出あうと嬉しくなつてカメラを向けます。

この楓の木も好きな木の一つ、根が盛り上がって堂々たる立ち姿がなんとも勇ましく、齢を重ねても、こうありたいものだと思うせてくれる樹です。

この樹の背景にある数本の楓が紅葉すると写真のように華やかな衣を纏ったようになり、毎年この樹に会うため滑床に行きます。

しかし、このような風景に出会うためには、タイミングが重要です。なので、少し前に行つて口

ハンしてから、タイミングを合わせるのも楽しみの一つです。

※この楓は万年橋上の駐車場から100mほどの所にあります。

＜＜ KUBO MASAFUMI 久保政文

1955 年生まれ

宇和島市でみかん栽培をしながら、趣味の写真を撮り楽しみ、アサギマダラの飛来地の育成にも取り組んでいます。



上光満の大銀杏（宇和島市） 撮影 12月12日

宇和島市光満上光満地区の大銀杏です。ほぼ毎年、12月1日に全体が色づきます。敷地には落葉した銀杏がまるで絨毯のように敷き詰められます。この時期太陽が地面すれすれに南西の方向に落ちていきます。

ここは元々光満地区の総鎮守として「天神社」があった場所で、

昭和初期までは幟旗も出て賑やかさを保っていたそうです（今は高神社社に合祀されています）。

写真左から銀杏、風、銀杏とほぼ等間隔に並ぶ3本の木ですが、一番大きな銀杏の幹回り、約4.5メートルにもなり、遠くから見るとまるで1本の木のように見えます。

＜＜ NAKAGAWA YACHIYO 中川八千代

愛南町在住。子育てが終わって写真を楽しんでいます。



高知と愛媛の県境から愛南町正木地区を篠川沿いの県道332号線を篠山に向かって車を走らせると約20分で藤ヶ駄馬休憩所に着きます。道路右手に石垣があり、ここに植えられた紅葉が見事です。ここは年間を通じて木々を飛び交う野鳥の囀りや時には狸や鹿に出会うこともあり、緑の中で一息



篠山（愛南町） 撮影 11月29日

※宇和島市津島町から篠山学習館経由で訪れるルートもあります。

つける癒しの場所になっています。上部に古びた東屋があり、そのからの撮影です。また、比較的温暖なことから紅葉の時期が遅く、11月下旬から12月にかけて見頃になり、初雪が早く降った年には、紅葉と雪のコラボも見られることもあります。



＜＜ HONDA KOICHI 本田耕一

元宇和島市立城北中学校長
前伊達博物館長 南愛媛医療アカデミー校長



等覚寺の伊達家墓所（宇和島市野川）

撮影 11月25日

伊達家の菩提寺は主に三力所に分かれている。竜華山等覚寺の西と東の墓所、金剛山大隆寺である。写真は等覚寺の西の墓所で大きな紅葉が植えられている。

写真撮影は石灯笼と紅葉、あるいは石段の落ち葉など考えられるが、この写真は宇和島藩藩祖秀宗公の墓を中心に据え、右手に紅葉を入れてみた。杉林の中、一段上に殉死した四人の家臣の墓に守られ、秀宗公の五輪の塔がある。春は桜、秋は紅葉が彩りを添える。私は毎年、何度も訪れお参りするが、心落ち着く場所でもある。

紅葉を眺めながら400年前、長子でありながら仙台62万石を継ぐことができなかった、悲運の武将秀宗公に思いを寄せ、ふと、西に目を向けると宇和島城が目に見え込んできた。

鉄女 やましたあやこの

嗚呼、予士線らぶそでいー「夏、ヒーローにときめく」

<http://yodosen-green.com/> ※その他のエピソードもHP掲載中



この夏、雨上がりのJR窪川駅で私はヒーローに遭遇した……。あのグレーと赤の体躯には見覚えがある。そう、あれはM78星雲の彼方からやってきたウルトラマンではないか！！！！



駅長とウルトラマン。夢の出発式が窪川駅で実現した。

2021年7月22日、予士線に「ウルトラトレイン号」なるものが見えし、この日、出発式がおこなわれた。予士線走るキハ32には、歴代のウルトラマンがずらりと描かれていて、どんな怪獣もやつつけてしまいたいようなデザインとなっている。まさか、予士線にウルトラマンがやってくるなんて！ 歴史的瞬間を目撃し、大興奮の1日が始まった。ウルトラマンは、地球に滞在できる3分を超えてもなお、予士線を盛り上げるために駅長と並んで出発進行の合図までやってくれたのだ。列車に乗り込んでいた親子は窓から乗り出してウルトラマンに手を振っていた。ウルトラマンもまた

優しく手を振り返してくれた。なんと平和なひと時だろうか。



子供たちに手を振る駅長とウルトラマン。

さらに、この日、「海洋堂ホビー館四万十」でウルトラヒーローショーが開かれた。海洋堂と円谷プロがタッグを組むとこんなビッグイベントまでも実現してしまうのか……。私は、年齢40にもなつて、「ヒーローショー」という言葉にときめき、一目散に会場へ向かった。

私が6歳だった1985年、当時、共働きで細々と生活していた両親は、山や川、海などは、ちよくちよく連れて行ってくれたものの、デパートでお買い物など、ほとんど行かなかった。そんな幼少期に、とてつもなく、ときめいた記憶がある。

そこそがヒーローショーだ。ちょうど北宇和島駅から近い場所にショッピングセンターなるものが登場し、週末ごとに様々な集客イベントが行われていた。

無料ということもあり、やってきたのは、ドラゴン、グリフォン、ペガサス、フェ



ニックス、マーメイドの5人の戦士が活躍する「電撃戦隊チェンジマンショー」だ。テレビで観ていたヒーローたちが、目の前で敵を倒す。途中、敵にやられそうになると、「みんな力を貸してくれ！」と観客に応援を求める。すると会場の全員でヒーローに声援を送り、その声を力に変えて敵を倒すのだ。

両親に当時の話を聞くと、そのショーにすっかり心を奪われた私は、とりわけブルーのペガサスに夢中になり、一緒に写真を撮ってほしいと、いつになく積極的に父にせがんだという。今でもこの写真を見ると当時のドキドキ感を思い出す。



6歳のわたしとあこがれのペガサスチェンジのツーショット

ヒーローショーなんて何年ぶりだろうと、ワクワクしながらヒーローの登場を待った。雨雲は去り、次第に陽が差し込んできた会場に「ウルトラマントリガー」が現れた！ 最新のウルトラヒーローだ、ウルトラQ「ウルトラマン」ウルトラセブン「世代の私にとって「よう知らんやつ」と、一瞬思ったが、やはりヒーローは、カッコいい。ちびっ子たちも釘付けた。

そして、続けて出てきた怪獣は、なんとウルトラセブンに登場していた怪獣たちじゃないか。にくい演出に急に親近感を感じてしまった。



▼ガイロス（ウルトラセブン第42話「ノンマルトの使者」）

地球で誕生した怪獣で、ウルトラセブンと水中戦を繰り広げたタコに似た姿で毒の入った吸盤が最大の武器。海を渡る船を次々と襲いかかり、ウルトラセブンのアイスラッガーで触手を切断されて敗北した。

▼パンドン

（ウルトラセブン第48話「史上最大の侵略（前編）」、第49話「史上最大の侵略（後編）」）
ゴース星人が地球侵略のために送り込んできた怪獣で、左右対称の2つの顔を持ち、鳥のような2つの口ばしから火炎を放射して攻撃してくる。ウルトラセブンのアイスラッガーも叩き落とされて踏みつけられるなど苦戦を強いられた。



見ると、ちびっ子だけでなく、お父さんたちまで「あつ、ガイロスや」「あれはパンドンや」と大騒ぎ。ウルトラセブン世代のお父さんなら知っている怪獣たちだ。こうして世代を超えて楽しめるなんて最高だ！

テレビでは、セブンがやつつけたはずの怪獣たちは、思いのほか強力で苦戦を強いられるトリガー。このままでは、やられてしまう、そんな・・・

すると「みんな、ウルトラマントリガーに力を貸して！」と会場に向かって叫ぶお姉さん。ウルトラマントリガーは、我々の正しい心のエネルギーでパワーアップするというのが、新型コロナウイルスのため大勢は出せない。エネルギーを送るには、手を前に突き出すか、思いっきり拍手をするしかないという。さもなくば、悪い怪獣はますます大暴れして、このままでは地球が乗っ取られてしまう。いかん！

これは力の限り手を突き出さねば、力の限り拍手をせねば！

私は、ちびっ子といっしょになつて必死で手を叩いた。ふと見渡すと、お父さんたちも拍手しまくつて、まわりのウルトラマントリガーは、怪獣をやつてくれた！もうすっかりトリガーの虜だ。見上げると空には雲一つなく、すっかり晴れ渡っていた。なんて、清々しいんだ！明るい気分が帰路につくと、すっかり日が暮れていた。まさか予土線で一日中、ヒーローを感じることができると。こんなに、ときめきをくれたヒーローは、やっぱりすごい！次は、どんなヒーローに出会えるのか・・・

予土線にまた来てくれないかな。



海洋堂ホビートレイン ウルトラトレイン号について

高知県の予土線利用促進対策協議会と大阪市を拠点とする大手フィギュア製造メーカー「海洋堂」と、円谷プロが連携して誕生した。今回、海洋堂はウルトラマンシリーズを1980年から絶えず製作しているということから「海洋堂ホビー館四万十」開館10周年とウルトラマンシリーズの放送開始55周年を記念して運行。ホビー館では「海洋堂ウルトラマンフィギュア展」も2022年5月30日まで開催中。

海洋堂と予土線

高知県出身で「海洋堂」の創始者である館長の宮脇修氏が高知県四万十町に「へんびなミュージアム」として「かつば館」と「海洋堂ホビー館四万十」を設立したのが2011年。最寄り駅となるのが5キロ先の打井川駅ということで、海洋堂のラッピング列車を予土線で運行させており、沿線地域に鉄道ファンだけでなく、世界中のフィギュアファンも呼び込む起爆剤となっている。へんびながらも、海洋堂が造形作家らと生み出したフィギュアの宝箱と予土線は結ばれている。

ついに予土線に駅弁が登場!!

米どころ、宇和島市三間町の「みま米」が駅弁として期間限定販売。10月から始まるJR四国の「四国DCキャンペーン」に合わせて、予土線の魅力を食でも味わってほしいと「道の駅みま」が発案しました。掛け紙にもこだわり、懐かしのあのお茶もついてくる!!



- 値段：500円税別（1日限定40個）
 - 販売場所：JR宇和島駅コンコース 午前9時～
 - 販売期間：10月2日～11月28日の「しまんトロッコ」運行日※
- ※https://www.jr-shikoku.co.jp/yodo_line/shimantorokko.html



山下 文子 やました あやこ

宇和島市出身、鬼北町育ち。予土線沿線は、県をまたくも「ザ・生活圏」。鉄道を始め、乗り物は何でも大好き。座右の銘は「その角を曲がれば、旅」(※永六輔氏のうけうり)。「四万十の鉄道 予土線」のホームページでコラムを担当。

- 🏠 <http://yodosen-green.com/>
- 🐦 <https://twitter.com/yodosen>
- 📘 <https://www.facebook.com/yodosen/>

協力：高知県予土線利用促進対策協議会



坪内 政美 つばうち まさみ

スーツ姿で撮影するという奇妙なこだわりをもつ鉄道カメラマン・ロケコーディネーター。各種鉄道雑誌などを執筆する傍ら、テレビ・ラジオにも多数出演。町おこし列車「どつぽ列車」を主宰し、駅スタンプを製作・寄贈する活動を行っている。高知県予土線利用促進対策協議会アドバイザー。ブログ：「坪内政美公式ブログII」

【主な活動・執筆など】

鉄道全路線シリーズ(朝日新聞出版)旅と鉄道・鉄道キング(山と溪谷社)サライ・ピーパル・本の窓(小学館)琴電殺人事件(西村京太郎・新潮社) JTB時刻表・ノジュール・青春18きっぷの旅・観光列車でいこう・るるぶシリーズ 主に四国関連・瀬戸内海離島(JTBパブリッシング)四国旅マガジン GajA(SPC出版)ネコ駅長ばす PHOTO BOOK(エイ出版)鉄道珍百景(天夢人)ほか、ラジオまどんな「どつぽの鉄道見聞録」(NHK 山放送局・17:05～月一度程度出演)多数。

とお かわ

十川駅「こいのぼりの川渡し」で知られる駅

駅データー

■所在地 高知県高岡郡四万十町十川 ■開業日 1974(昭和 49) 年 3 月 1 日 ■旅客ホーム数 …1 面 1 線・無人駅



徒歩 5 分ほどにある四万十町役場十川地域振興局には駅スタンプが設置されている。鉄道カメラマンの坪内政美さんが予土線のにぎわい創出に寄贈したもの。



名物となっている「国鉄十川」の駅看板。古き良き鉄道の風情を感じられる。

予土線の開通と時を同じくして始まったのが「こいのぼりの川渡し」。新緑のまぶしい毎年 4 月下旬から 5 月末にかけて四万十川にかかる虹のごとく、色とりどりのこいのぼりが悠然と泳ぐ姿が見られる。川の両岸にロープをかけるという大作業だが、地域のシンボルとして観光の目玉になっており、駅のホームからも一望できるほど。駅前の通りにある街灯にもこいのぼりがデザインされている。季節限定ながらトロツコ列車に乗ると、こいのぼりと同じ風を体感しながら予土線を楽しむのもおすすめ。

予土線三駅語り

6

十川と土佐昭和と土佐大正



文：山下 文子



写真：坪内 政美

かっぱバックパッカーズ 高知県高岡郡四万十町十川 223-1 ☎ 090-5278-4402

十川駅から徒歩 8 分のゲストハウス。ドミトリー※なら 1 泊一人 2800 円。「よどせんルーム」と名付けられた 6 畳の個室 (1 泊一人 3800 円) もあり、鉄道ファンや親子連れに人気。なんととっても薪で湧かす五右衛門風呂に浸かりながら予土線トレインビューを楽しめるというのがたまらない。※相部屋を前提とした部屋のこと。



四万十ドラマ直営店「とわ」 高知県高岡郡四万十町十川 4-1 ☎ 0880-28-5115

十川駅から徒歩 5 分にあり、特産品の「地栗」を使った商品を販売している。熟すと糖度 20 度と果物のような甘味が特徴の「地栗」は、モンブランや栗きんとんに加工されていて直営店のすぐそばには工場もある。オンライン販売 (SHIMANTO ZIGURI ストア) で全国各地に発送できる。



と さ しょう わ

土佐昭和駅「ザ・昭和」を見つけたい駅

駅データ

■所在地 高知県高岡郡四万十町昭和 ■開業日 1974(昭和49)年3月1日 ■旅客ホーム数…1面1線・無人駅



(写真上) 土佐昭和駅駅内 (写真下) 待合室

「昭和」は、地域の字名で昭和天皇即位を記念して村名となった。その名の通り、もはや懐かしさを感じる「昭和」といふ響きに駅周辺を見渡すと、三角屋根の観光案内所という名の待合室がある。中に入ると鏡やポスターなど「昭和」を感じる小物が飾ってある。



三島キャンプ場 高知県高岡郡四万十町昭和 144-1 ☎080-6283-1717

土佐昭和駅から30分ほど歩き、歩行者用トンネルを抜けると予土線の鉄橋と四万十川にかかる沈下橋が現れる。鉄道写真に最適な撮影スポットであり、「青春18きっぷ」のポスターにも起用された風景が広がっている。四万十川に囲まれた中州で、川遊びやカヌーを楽しめる。4棟のバンガローのほか、テントを張るスペースもある。 <https://www.campion.jp/pages/camp059.php>

と さ たい しょう

土佐大正駅 鉄道旅のおともに栗焼酎はいかが？

駅データ

■所在地 高知県高岡郡四万十町大正 ■開業日 1974(昭和49)年3月1日 ■旅客ホーム数…1面2線・無人駅



町制作のスタンプ

木造校舎のような佇まいで大きな時計が特徴の駅舎。平日は地元のバス会社とJRの切符を販売している窓口もあり路線バスや観光タクシーも利用可能。駅を降りてすぐに宿泊施設や飲食店もあり、徒歩30分圏内には道の駅「四万十大正」や河内神社、四万十町郷土資料館もあるので、まったりと街歩きを楽しむのもおすすめです。土佐昭和から土佐大正の乗車区間は、四万十川の雄大な景色を最も堪能できるので、特にトロッコ列車が一押し。

株式会社四万十川焼酎銀行 高知県高岡郡四万十町大正 435-3 ☎0880-29-4800

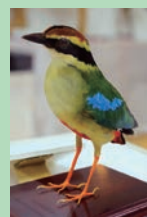
大正駅から徒歩6分にある「預貯酎」ができる銀行。本物の銀行を活用し巨大金庫を酒蔵として栗焼酎を保管している。普通または定期で預けることができ「馬之助栗」は地元の酒造会社がこだわった逸品で、銀行で試飲してから口座を開いて預けるというユニークな仕組み。利息は熟成された旨味と香りというわけだ。



四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンター

高知県高岡郡四万十町大正 31-1 ☎050-8800-2816

高知県鳥、四万十町の鳥ともなっている「ヤイロチョウ」は、体色が青や赤、緑などカラフルな8色であることから、その名がついた美しい渡り鳥。日本での生息数が少なく、警戒心が強いいため、滅多にその姿を見る事ができないことから「幻の鳥」、また英名で「フェアリーピット (妖精の小鳥)」と呼ばれている。館内には世界のヤイロチョウの写真や子育てのようすを収めた貴重な映像が楽しめる。



新観光情報センター 「シロシタ」オープン



シロシタ外観（建物の右側に駐車場があります）



自由に利用できるカウンターには充電できる機器が設置してある



「マイブーヤレ制作体験」カラフルなブーヤレが出来上がります

新たな観光交流拠点として、8月7日に宇和島城桑折氏武家長屋門の横に新観光情報センター「シロシタ」がオープン致しました。和の雰囲気の木造2階建ての正面玄関横には、ロゴマークが染められた日除け暖簾があり、落ち着いた雰囲気を醸し出しています。このロゴマークは、宇和島城をモチーフにした、独自性の高いデザインになっています。「シロシタ」が、宇和島城を中心に広がるこの地域の入口となっていくよう、破風に見立てた「入」という文字がデザインされ、落款の「宇」は宇和島城の城郭形にちなんで五角形で囲んであります。

1Fは、共有スペースとなっていて、休憩場所、観光案内所、物販コーナー、体験コーナーがあります。観光案内所では、宇和島市関連のパンフレットはもちろん、宇和島市周辺関連の資料もご用意しています。また、JNTO（日本政府観光局）認定外国人観光案内所「カテゴリー2」の資格を取得し、外国語（主に英語）のパンフレットもあり対応も可能です。

休憩場所は、密にならないように窓際にはカウンター席もあり、充電の設備も完備していて、「旅先での困った」に対応しています。また、館内はフリーWi-Fiも利用可能で、デジタルサイネージでは、宇和島の魅力をPRしていきます。

物販コーナーでは、宇和島城にまつわる



みずの ことみ
水野 琴美

（株）うわじま産業振興公社
まちづくり観光部



◆宇和島てぬぐい 660 円

宇和島の風景や観光名所を一堂に集めました。



◆真珠お守り 500 円

無穴の真珠は強い守護力があるとされています。



◆マスキングテープ (各種) 660 円

書き下ろしイラストによるシロシタオリジナル商品です。



◆ブーヤレ 2,500 円

宇和島の魔除け「牛鬼」の表情豊かな張り子です。(よしを民芸店)



◆一筆箋 660 円 (右)

兵頭俊朗氏による宇和島城の版画作品に一言を添えて。

◆ブロックメモ 550 円 (左)

兵頭俊朗氏によるカラフルな牛鬼の版画作品がかわいい。



◆鹿面 2,500 円

宇和島伝統の「八ツ鹿踊り」の鹿面をモチーフに。(よしを民芸店)



◆ペーパークラフト 880 円

実物の宇和島城の 1/300 スケール！再現率が高い！

◆ポストカード (各種) 150 円

宇和島市出身 兵頭俊朗氏による宇和島の風景版画をポストカードにしました。

ものを中心にセレクトしており、「シロシタ」にしかないグッズや、宇和島出身の版画家・兵頭俊朗作品のポストカードをはじめ、よしを民芸店や宇和島名産即売所の郷土玩具など郷土色豊かな品揃えとなっています。商品数は少ないですが、季節ごとに内容を変えながら、道の駅などとは違った商品構成にしたいと思っています。

また、大人も子供も楽しめる宇和島らしい体験として、「マイブーヤレ制作体験」を常時行っており、観光客をはじめ、地域の皆様にも「牛鬼」のお話をお伝えして、世界にひとつのオリジナルブーヤレを制作していただけます。

「シロシタ」の建物や、ロゴマークなどについてご説明してきましたが、今後どのように活用されるかが重要です。来訪者にとって役立つ、情報提供の内容や質の向上、宇和島での滞在時間を延ばし消費に繋がるような仕掛けづくりなど、そして、まずは宇和島に来ていただけるよう各方面の方と協力し、情報発信等に取り組んで参ります。

これまで、自動販売機さえなかった登城口に、「シロシタ」という、ゆっくり休憩できる施設ができたことは、来訪者の利便性も向上し、印象もずいぶん違ってきているのではないかと感じています。今後は、地域の方を巻き込みながら、宇和島城へ越しのお客様はもちろん、住民の皆様にもご愛顧いただける「観光交流拠点」として、スタッフ一同、観光振興を進めて参りますので、宜しくお願い申し上げます。

江戸時代から続く伝統文化——（宇和島市吉田町） 吉田秋祭の神幸行事



撮影／河野哲夫 ※今年の吉田秋祭は中止です。

大本敬久

愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員

毎年十一月三日に宇和島市立間・吉田地区を中心に行われる「吉田秋祭」。立間は平安時代成立の「和名類聚抄」に郷名として登場しており、古代から集落が形成されていた。立間郷の鎮守として八幡神社の崇敬はあつく、江戸時代に入ると、一六五七（明暦三）年に宇和島藩の初代藩主伊達秀宗（仙台藩・伊達政宗の長子）の五男宗純が三万石を分知されて吉田藩が成立する。吉田藩の陣屋は現在の吉田地区に築かれ、ここが藩の中心地として周囲に武家町、町人町などが形成されていったが、伊達家は八幡神社を総鎮守として仰ぎ、氏子園が立間、吉田など広範囲に形成された。

吉田秋祭は、伊達家が入った直後の一六六四（寛文四）年に始められ、江戸時代後期には牛鬼など各種の練物が登場するなど、華やかな祭りへと発展していった。

現在、吉田秋祭は三日午前五時から卯之刻相撲に始まり、日中は楠木正成や豊臣秀吉、武内宿禰らの人形を載せた屋台（地元では「練車」と呼ばれる）を曳いて町内を練り歩く「おねり」が名物で、本町、魚棚、裡町など町ごとに様々な練物、屋台が町内を歩き、

午後五時頃に八幡神社に神輿が帰って祭りは終わる。

吉田秋祭に関しては江戸時代成立の絵巻が残っており、町ごとの行列の様子が把握でき、しかも描かれている様子と変化が少ないまま、現在に伝承されている点が愛媛だけではなく全国的にも稀少とされている。

平成三〇年七月の西日本豪雨により、宇和島市吉田町は甚大な被害を被ったが、長年にわたって継承されてきた吉田秋祭は、年に一度、地域住民の結集を再確認する機会であり、愛媛を歩き続けた民俗学者・森正史は「祭りがあるかぎり、ふるさととは健在である」とも述べている。祭りは地域の結集の場として、今後の復興に果たす役割は大きいといえるだろう。

なお、祭りの様子は、吉田秋祭保存団体協議会が映像制作しており、現在、宇和島市ホームページ内の「新宇和島の自然と文化」で公開されている。



おおもと たかひさ
1971年、八幡浜市生まれ
専門は民俗学・日本文化論
著書に『民俗の知恵』（創風社出版）等

災害乗り越え、挑戦中！



名物 特上天丼 1070円

まずは、自己紹介をさせて下さい。私は、松前町出身で、結婚を機に宇和島市吉田町に嫁いできました。地元では学生の時から飲食店（寿司屋）でアルバイトをしたり、卒業後は受付業務やアパレルなど職種は違えど接客に関わる仕事をたくさん経験してきました。

さて、弊社は平成30年7月の西日本豪雨災害で吉田町の本店「寿司良」の店舗が被害にあいました。当時は、吉田町の浄水場の被害が深刻で水道も1ヶ月間使用できず、店舗は約2ヶ月間の休業を余儀なくされました。その間、従業員の雇用の場を確保できないうちはとても申し訳なく、悔しい思いでした。災害の影響で町外への転出者も出る状況の中、営業を再開しても災害前の売上が見込めるの



かと不安もたくさんありました。しかし、この災害の経験が次の事業展開を真剣に考えるきっかけとなりました。

新店舗では、これまで長年「寿司良」の味として親しまれていた天ぷら、茶そばと、当時ランチタイムのみの提供でしたが好評だった天丼をメインとしました。これまで培ってきた技術を生かし、自信をもって提供できる事が強みとなりました。そして、令和元年11月に宇和島市中央町に「天婦羅天よし」を開店。

全席から中央の揚げ場が見えるライブ感満載の店舗で、地元の食材や時期ごとの旬な食材を国産のこめ油で調理しています。天ぷら定食は、目の前で揚げた天ぷらを順番にお出



しし、最後まで揚げたてアツアツで召し上がっていただけるのがこだわりです。卓上には、箸休めとして無料のイカ明太とガリの胡麻あえを置いてあります。

そして、定食のご飯は、おかわり無料、天丼のご飯大盛りも無料など、地元のお客様に何度もリピートしていただけるような様々な工夫もしました。コロナ禍で大変厳しい飲食業界ですが、災害も乗り越えてきた私達です。この長引く苦境も必ず乗り越えられると思っています。

まだまだ、2年目の当店ですが、これからも末永く地元の皆様に愛されるお店になれるように、頑張っていきます。

株式会社 伊予善

■本店 寿司良／宇和島市吉田町東小路甲 21 ☎.0895-52-3911

■天婦羅 天よし／宇和島市中央町 1-7-17 ☎.0895-49-3607

宇和島 天よし

<https://www.tenyoshi.com/>

うわしん「南予活性化若手経営塾」とは、宇和島信用金庫において1年間、南予地域の産業活性化をはかるために創業者や2代目、3代目の若手経営者を育成し、企業経営体質の健全化・成長のためのセミナー・個別指導・異業種交流等をおこなっていて、地域内の中小企業の経営レベルを向上させる目的で開講されています。

新型コロナウイルス感染症 第5波とデルタ株

新型コロナウイルス感染症が8月より急

激に拡大しています。マスクや三密回避は定着し、ワクチン接種者も増えているのにも関わらず第5波の感染拡大が起きたのは、変異ウイルスのデルタ株によるものです。

すでに国内の新型コロナウイルス新規感染者の9割以上はデルタ株です。

デルタ株は強い感染力を持っています。

短時間のマスクなしの会話、換気が悪い空間でのマスク越しの会話などでも感染してしまう可能性があります。従来の新型コロナウイルスは一人の感染者から平均1.4〜3.5人くらいに感染していましたが、デルタ型は一人の感染者から平均5〜9人に感染すると報告されています。また、ウイルス量が1200倍も多いとの報告もあります。

感染すると重症化しやすく、入院するリスクが2.08倍、ICUが必要になるリスクが3.34倍、死亡するリスクが2.32倍になったとの報告があります。

デルタ株は、感染力が強いため子供の感染も増えています。子供の場合重症化することはまれですが、家族内感染に至る例が

多くなっています。

また、ブレイクスルー感染といわれるワクチンを2回接種したにもかかわらず感染する例もあります。そのため、ワクチン接種後の規制緩和を見直す国が増えてきています。ワクチンによる重症化を防ぐ効果は高く、ブレイクスルー感染のために亡くなる恐れは0.001%未満と報告されています。

しかし、症状が軽くても他の人に感染させる可能性があるため、ワクチン接種後もマスク等の対策は引き続き必要です。

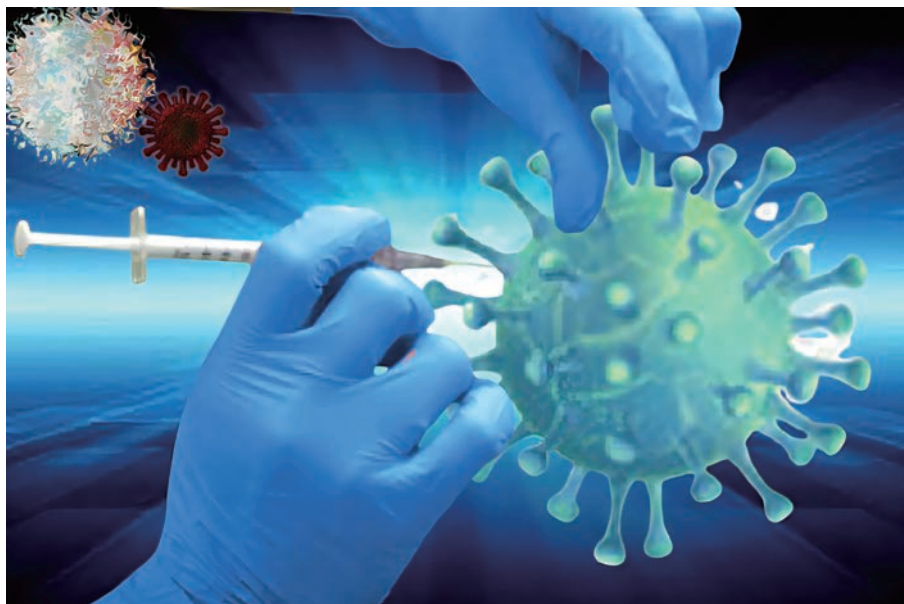
都市部では感染者の急増のため、入院が必要にもかかわらず入院できないケースが増えてきています。新型コロナウイルス感染症の患者さんの集中治療には通常の2〜3倍の医療スタッフが必要であり、その影響は一般の診療にも及びます。宇和島圏内でも感染が拡大した場合、感染者さんだけでなく、それ以外の重症者も助けることができない状況になるかもしれません。
デルタ株への対策はマスク、三密を避ける、こまめな手洗い、換気、体調の悪いと

きには出勤・登校をしないなど、基本的には今までと変わりありません。ワクチンは

従来株と比べてやや有効率が低下するものの、発症や入院を予防

する効果は約9割と報告されており、極めて有効な対策です。

ワクチン接種が進んでいる高齢者の感染や重症化が減ってきている一方で、未接種者が多い若年層での感染や重症化が増えてきています。自分が感染しないため、そして大切な人を感染させないために、ワクチン接種へのご協力をお願い致します。



沖内科クリニック
副院長 沖 良隆

心を満たす栄養（最終回）

私の趣味の一つに登山があります。広島に行く前には鬼ヶ城山系などによく登ったものです。まだ、病院に勤務していた頃のことです。登山の途中で休憩をしていたら、見知らぬ人に声をかけられました。「あなた、市立病院の栄養士さんですよ。うちの家内が入院中にお世話になったんですよ。食事も工夫があっておいしかったけど、何よりもよかったのがメッセージカードよ！ 家内が褒めよった。入院中は何もすることがないからメッセージカードを読むのが楽しみやっとなし、癒された言いよった。全部、持って帰ったので私も見せてもらたけど、内容が幅広いし、作るのも知識がいるやろうし、大変なことよねとてもいい試みよ。感心した。これからも頑張つてや」。

ここで、メッセージカードについて説明します。一言メモとかメッセージカードとか施設によって名称は様々ですが、食事につける情報メモのようなものです。お祭りやお正月などの行事食には添付されることが多いのですが私の勤務していた病院では普通の日にも添付していました。内容も栄養素や食材の説明、実施している衛生管理について、評判の良い献立のレシピ（手作りプリン、鰹のたたき、ピーマンの佃煮等）、非常食について、

減塩食の意味、^{※1}嚥下食の作り方、真空調理の説明、誕生日のお祝い、二十四節季など幅広く作成していました。

さて、先ほど登山途中にいただいたお言葉で「元気が出たの」言うまでもありません。メッセージカードを作成・配布したのは科員全員の共同作業だったからです。目的は病院食に付加価値を付けることです。治療食というのはエネルギー、タンパク質、塩分などが制限されていることが多く、その理由を理解して食べることで、食事摂取量も増加して治療効果につながる場合もあります。料理という「モノ」に理由を説明するという「コト」を追加することで体の栄養とともに心の栄養も摂取できると考えたのです。なぜ、健康食は薄味なのか、今日の料理に使用されている食材にはどのような栄養素が含まれているのか、なぜ、病院食には半熟卵は出ないのか・・・？ の理由が記載されているのがメッセージカードなのです。

がんの化学療法中の患者様にお茶漬けを提供した時に次のようなお返事をいただいた経験があります。「食欲の低下している私にとって、何年かぶりのお茶漬けをおいしくいただきました。香ばしい香りが食欲をそそり全部食べてしまいました。元気が出ました」。

※嚥下とは、口の中の食物を胃にのみ下すことで、飲み込みや咀嚼（そしゃく）といった嚥下機能の低下がみられる場合に、嚥下機能のレベルに合わせて、飲み込みやすいように形態やとろみ、食塊のまとまりやすさなどを調整した食事のことを言います。

そこで、コロナ禍の今、体も心も満たされる栄養に関して考えていきたいと思います。体の栄養に関しては「つなぐNo.14、15」に関連した文章を書いておられますので読んでいただけたら幸いです。むつかしい食事ではなく、規則正しく、バランスのとれた食事を継続して楽しく食べることが基本になります。

心を満たす栄養には、どのようなものがあるでしょうか。お食事をおいしく、楽しんで食べることができる環境づくりもその一つでしょう。料理を盛り付ける食器、テーブルや椅子の配置、テーブルクロスやランチョンマット、料理がおいしく見える照明、それらをしつらえる行動こそが心を満たしていくのではないのでしょうか。1個のおにぎりでも川のせせらぎを聞きながら、野外で食べるとおいしく感じたりするものです。また、食材を育てたり収穫したりする行為もいいでしょう。私は農業の経験がなかったので病院を退職後友人と水田を借りて米作りをしていました。自分で育てたと思うと大切に食べようと思ひ、おいしく感じられたものです。

大勢でワイワイと楽しく食事ができない今より一層心を満たす栄養が必要とされているように感じます。皆さんにとっての心の栄養を見つけてください。



広島修道大学
健康科学部 健康栄養学科
教授 藤井 文子
宇和島市出身
きものを楽しむ会々長

さて、最後になりましたが、この場をお借りして、ご挨拶を申し上げます。このコラムへの私の執筆は、これが最後になります。「読みよるよ」と声をかけてくださった方々、ありがとうございました。「つなぐ」に執筆することで中学校以来会っていなかった同級生や遠方に住む友人から連絡をいただいたりしました。まさに人と人、地域と地域を「つなぐ」役割を果たしてくださり心より感謝申し上げます。



お気楽 俳句

食欲の秋にちなんで食べ物の句をご紹介。食べ物の季語はその旬にあたる季節の季語とされており、美味しそくに詠むのが鉄則。ですが、社会を風刺したものなど例外もあります。

以下の句の色文字が季語です。どんな味、どんな場面が想像できるでしょうか。
(小野更紗)

岩塩のうすも色や**衣被**
きぬかづぎ

みかりん

椎茸焼く月色のバターたつぷりに*

初蒸気

枝豆のしほあぢ龍のなみだほど*

どかてい

大豆煮る泡たくましき**新麴**
えみぐり

かま猫

笑栗やほほを豊かに道祖神*

ほろよい

まほろばは南にありて**みかん**の香

ひそか

葱汁や和尚に太き尾のゆらり

七転八転

雑炊の米笑い出し卵割る

大槻税悦

パティシエの**ネーブル**を切る指長し

郁

むしり喰う流刑の島の**干鰯**
ほしがれい

理酔

壺焼に地獄巡りの風匂う

笑吉

酒ほどの薬有ろうか**蛭烏賊***
はたらいか

鞠月

エコーには男子のしるし**粽**食う
ちんね

さち

砲弾がすべて**キャベツ**になればいい

クラウド坂上

幣よりも白明るかり湯引きの**鱧***
ぬぎ

天玲

冷麦のなんと気楽や箸の国*

みなと

大串を抜きて**山女**の塩飛ばす
やまめ

めろめろ

*は松山市運営の俳句投稿サイト『俳都松山 俳句ポスト365』優秀作品、他は南海放送ラジオ「夏井いつきの一句一遊」優秀作品。投稿時の俳号で記載しております。



絵：律川エレキ
1966年宇和島市生まれ
奈良市在住
2000年頃より俳句新聞
や俳句マガジン等に挿
絵を描く。映像作家

「たってき：とりあえず」

●俳都松山 俳句ポスト365 <https://haikutown.jp/post/>

●夏井いつきの一句一遊 <https://www.rnb.co.jp/radio/haiku/>

おすすめの本

いのちの停車場

幻冬舎文庫／南 杏子 著 ￥710（税別）

著者は現役医師で作家の南杏子さん。

大学卒業後、出版社に勤務。乳幼児の病気を取材して記事を書くうちに医師への想いが募り、長女2歳・自身が33歳の時に医学部へ学士編入し、38歳で医師に。そして2016年、55歳で作家デビュー。そのチャレンジ精神に圧倒された。

この作品は、62歳の女性医師が、あるきっかけで故郷・金沢に戻り訪問診療医として活躍する姿を描いている。在宅での終末医療現場で、様々なケースと向き合い学びを重ねて行く。一方で同居する父が病に倒れ……。

コロナ禍の中、吉永小百合さん主演で映画化され話題になっています。



協力：岩崎書店 宇和島市錦町4-16 TEL. 0895-22-0528

■アトリエ堀端絵画教室(べにばら画廊)

宇和島市本町追手 2-8-6 TEL. 0895-22-1104 <https://benibara.webhop.info/> コメント: 吉田 淳治



作品名:『鉄鑄』(油彩)
作者: 岡原 節子 (大人クラス)

世の中の嫌われもの、サビ。
筆をとり見つめれば、新しい発見が！
概念は消え、自らの眼で捉えた岡原さん。
鉄鑄は、美しい絵に浄化された。



作品名:『わたしのパパはすごい!』(水彩)
作者: 島田 来愛 (子供クラス)

らいらちゃんの海はお父さんの海。
潜ってとった、魚、えび、貝。
見て、食べて、絵にも描く。いいなあ！
第八大洋丸、漁を求めて今日もゆく。



作品名:『オニヤンマ』(水彩)
作者: 西村 虎汰郎 (子供クラス)

ゲームのキャラクター大好き、こたろう君。
空飛ぶトンボを描いてみた。
すると、力感溢れる絵ができた。
自然のおもしろさ、また目を向けてみてね。

■アトリエぱれっと <https://art-palette.wixsite.com/mysite>

宇和島市伊吹町字イカリ石甲 1083-1 2F TEL.090-7784-4703 yuka@art-palette.com コメント: 清家由佳



作品名:『柰榴』
作者: 福岡直美 (アクリル画)

福岡さんの描く作品は優しさに溢れた色彩とタッチで、いつも見る人を癒しの世界へ連れて行ってくれるのです。これからも人を幸せにする作品を描き続けてほしいです。



作品名:『収穫』
作者: 木村長子 (水彩画)

竹藪に沢山の野菜や果物が盛っており、その一つ一つが新鮮さに満ちています。木村さんのいつも優しく他を認める姿勢が素敵だと思います。作品にも現れていますね。



作品名:『ピンクの花』
作者: 中山智香 (小2) (油絵)

はじめての油絵で、よくここまで素敵に描けましたね！智香ちゃんの繊細でかつ大胆な表現が大好きです。これからも素敵な作品を沢山描いてね！



(100周年シンボルマーク)

宇和島信用金庫は
2022年5月3日で
創立100周年
を迎えます。

おかげさまで100周年 ～この街が好き、この街と未来を拓く～

(100周年キャッチコピー)



「つなぐ」は、こちらでどうぞ。

- 宇和島市役所ロビー ● 津島支所 ● 吉田支所 ● 三間支所 ● 市立中央図書館 ● 吉田図書館 ● 中央図書館津島分館
- 生涯学習センター ● パフィオうわじま ● 宇和島市立病院ロビー ● 市立伊達博物館 ● 宇和島市立歴史資料館
- きさいや広場(観光物産協会) ● シロシタ ● 道の駅みま ● 畦地梅太郎記念美術館 ● 宇和島商工会議所 ● 盛運汽船
- ハイウェイレストラン宇和島 ● 和日輔 ● 南楽園 ● かどや(駅前本店・弁天町店・味奈味) ● 福 DON ● 岩崎書店
- はまゆう薬局 ● パール薬局 ● ひまわり薬局 ● 小野商店(津島) ● 木屋旅館 ● 安藤コーヒー ● べにばら画廊
- アトリエばれっと ● あすも(津島) ● J R宇和島駅 ● J R松山駅 ● 香川・愛媛せとうち旬彩館(東京)
- 宇和島信用金庫各支店 その他

※宇和島市の「宇和島クラブ」に協賛業者として登録しています。

「つなぐ」の発行は、新春号(1月)、春号(4月)、夏号(7月)、秋号(10月)です(※予告なく変更になる場合がございます)

うわしん



<https://www.shinkin.co.jp/uwajima/>



宇和島信用金庫

— この街が好き、この街と未来を拓く —